施政方針

平成28年第2回小諸市議会定例会初日の2月23日、柳田市長が「平成28年度施政方針」を述べました。その全文を紹介します。

平成24年4月に私が市長に就任いたしましてから、早くも4年が経過しようとしております。

市長就任以来、私は、「対立から対話へ、そして協調へ」を掲げるとともに、「でき得る限り多くの市民の皆様の声に真摯に耳を傾ける」という信条のもと、小諸市を「明るく、自由で、活気あるふるさと」にするために、市政経営に全力で取り組んでまいりました。

この4年間を振り返ってみますと、就任1年目には、「新ごみ焼却施設」の単独建設、また、新市庁舎、図書館、市民交流センター、小諸厚生総合病院の市庁舎敷地内での併設を、苦渋の中で決断することとなりました。このことは、私にとっては、今もって傷として心の中に残っています。しかしながら、完成した「新市庁舎」や図書館と市民交流センターからなる「こもろプラザ」から新たな賑わいが生まれつつあることは、誠に嬉しい限りであり、今後移転再構築が行われる小諸厚生総合病院などとともに、市庁舎敷地一帯がコンパクトシティの核となり、さらなる賑わいが創出されていくことが期待される今、少し心の痛みが和らぐような気持ちがします。

このほか、「運動遊び事業」をはじめとした教育施策の充実、「浅間山麓高地トレーニングエリア構想」の推進、「お宝さがし」や「地区懇談会」の実施などによる「参加と協働によるまちづくり」の推進、行政経営の品質向上を図る「第9次基本計画」の策定と運用、小諸市が持続可能な自治体であり続けるための「小諸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定、そして、これから小諸市が進むべき方向を示す羅針盤となる「市の将来像」やその実現のための方策を掲げた「第5次基本構想（案）」の策定など、数多くの施策や事業に取り組んでまいりました。

こうした取組みを通じて、今後、小諸市がめざすべき方向へ向かって歩んでいくための一定の「基盤」は整ったと思っております。これもひとえに、議員各位をはじめ、多くの市民の皆様のご理解とご協力の賜物と、心から感謝を申し上げます。

今後は、この4年の間に築き上げてきた礎の上に、着実な実践を積み重ね、これを発展させていくことが、小諸市の進むべき道であると考えております。

1　コンパクトシティのまちづくりを通じた賑わいの創出

新市庁舎とこもろプラザが完成し、この3月から、いよいよ小諸厚生総合病院の建設が始まります。こもろプラザでは、開館以来、大変多くの皆様にご利用をいただいており、特に学習室は、平日・休日を問わずほぼ満室に近い状態となっております。また、新図書館につきましても、来館者が飛躍的に伸びており、小さな子どもたちから学生、子育て世代、年配の方々など、幅広い年代の皆様が集い、本に親しみ、思い思いに心豊かな時間を過ごされております。

こうした新しい人の流れを、いかに市街地の活性化につなげていくか、病院や商店街などと有機的な連携を図る取組みが重要であると考えております。

2　教育のさらなる充実

小諸市の将来を担う子どもたちが、明るく、健やかに、そして、心豊かで、自立できる人として育っていくためには、教育環境の充実は欠かせません。

「梅花教育」の精神を具現化し、子どもたちの「自ら学び、考え、理想に向かって行動する力」を育んでいくため、「運動遊び事業」や「先進的英語教育」の充実、「小学校低学年学習支援教員の配置」など、小諸市ならではの特色ある教育を一層推進していくことが必要であると考えております。

子どもは、家庭、学校、地域が育てるものです。子どもたちの健全な成長のため、家庭、学校、地域、行政が連携して教育環境の充実を図っていくことが必要です。

さて、昨年11月、野岸小学校管理棟の耐震改修工事が未実施であったことが判明いたしました。児童や保護者の皆様はもとより、多くの皆様に大変なご迷惑とご心配をおかけすることとなりましたことに、あらためまして深くお詫びを申し上げる次第であります。何よりも児童の安全を確保することが最優先であり、現在、仮設校舎での授業を7月から開始できるよう準備を進めております。

また、このようなことがなぜ起こってしまったのか、二度とこのようなことを繰り返さないためにはどうすべきなのか、第三者による「検証委員会」の報告を踏まえて、実効性のある対応策を検討し、組織としてしっかり取り組んでいかなければならないと考